

漢語通時コーパスの構築 —「大地コーパス」の設計と目標— 王鼎

2019年6月中国科学研究費の重点プロジェクトとして、「大地コーパス」が採択され、現在、5か年計画での漢語研究を目的とする通時コーパスの構築が進行中である。

漢語の研究は、山田孝雄(1940)『國語の中に於ける漢語の研究』(寶文館)によってその礎が築かれ、佐藤喜代治など多くの学者により研究が積み上げられてきた。特に、近・現代の漢語については、数多の研究成果とともに、「近代漢語の流行」、「近代訳語の創出と共有」、「現代日中同形語の共時比較」など、巨視的な視座も形成されている。一方、史的研究に関しては、個別的な語や特定の資料を対象とする漢語研究は多く見られるものの、語彙史を体系的に把握するにあたり、『日本語学研究事典』にも指摘されているように「各時代の漢語の分類、そしてその移入の経路や前代とのかかわり」(「漢語」の項目、佐藤武義筆)など、多くの課題がなお取り残されている。

漢語語彙史の体系的な研究は、中国と日本の夥しい古代文献を対象としなければならない。コーパスの整備が期待される場所であるが、残念ながら漢語研究を目的とする通時コーパスは、管見の限り未だ存在しないようである。「大地コーパス」プロジェクトは、こうしたことを背景としてスタートしたもので、日本と中国の古代文献を幅広く収録し、なるべく最良の底本を選び、語彙史の研究に適する信憑性の高い研究データの構築を目指し、漢語研究のための多様な検索、比較、統計機能を提供する予定である。

本コーパスの目標は、日本の漢語語彙史を、中日漢語交流史のなかで捉え、計量分析をもって体系化することにある。さらに、「漢語」を通して語彙の存在・変化の力関係を、時間軸の上で演算する数学方法の可能性を模索するコーパスとして、「大地コーパス」を位置づけたい。